

旭市子ども会育成連絡協議会

市内72団体の子ども会が加入している「旭市子ども会育成連絡協議会」では、毎年子どもパークゴルフ大会や地曳網体験、交歓会、書き初め展といった四季折々のイベントを開催するとともに、各子ども会の活動を支援しています。

今回は10月6日に行われたデイキャンプとかるた・レク交歓会を紹介します。

デイキャンプ

午前中は海上キャンプ場の炊事棟でシチューを作りました。参加した子どもたちは五つの班に分かれ、慣れない包丁さばきで懸命に具材を切りました。

鉈なたを使ってまきを割ることに挑戦しました。強風の影響で火をおこすことに苦戦したりしましたが、子ども



シチュー作り

会の役員やジュニアリーダーの協力で、無事にシチューが完成しました。

子どもたちは、苦勞して作ったシチューをロールパンに付け、笑顔で頬張りました。

かるた・レク交歓会

午後からは海上キャンプ場の体育館で、かるた・レク交歓会が行われました。かるた大会では県内の名所や歴史的人物、出来事の中から選定された44枚の読み札が読み上げられ、子どもたちは歓声を上げながら絵札を取り合いました。

引き続きチャレンジランキングゲーム大会が行われました。「トリムわなげ」「スポーツ吹き矢」「ペタンク」の3種の競技に挑戦し、得点を競い合いました。

模擬店では駄菓子だかしの販売が行われ、子どもたちは参加賞の買い物券を使い、笑顔で駄菓子を選びました。普段接することのない、ほかの子ども会の友達との交流も深まり、一日盛りだくさんのイベントを楽しみました。



かるた大会

あさひ輝いた人々 第15回

地元の発展を願い 行動した国会議員

鈴木 儀左衛門 (1856~1933年)



鈴木儀左衛門は水害に困っている琴田のために、地租(年貢)の免除や新川改修に努力したほか、政治家として総武鉄道(現在の総武本線)建設にも関わりました。

安政3(1856)年生まれ、家は代々農業を営んでいました。明治時代になり、国家の事業として地租改正が行われました。琴田村は干潟八万石の中でも低い土地であり、水はけが悪く、凶作になることが多い土地であるにもかかわらず、地租はほかの村よりも高かったため、地租改正反対運動を起こしました。儀左衛門はその中心となって活動しました。その努力が実って、琴田の地価(土地の値段)が引き下げられました。

琴田村は前に述べたように低地にあり、雨が降り続く

と水がたまってしまうので、新川の排水権を巡って下流の村と争ってきました。儀左衛門は干潟治水会の代表委員となり、排水事業の先頭に立って交渉に当たりました。

明治25(1892)年、千葉県議会議員に当選しました。このころ鉄道計画が始められ、東京~佐倉~銚子間をつなぐ総武鉄道が計画されていました。さまざまな人が鉄道誘致に関わりましたが、儀左衛門は千葉県議会議員として先頭に立ち、明治26(1893)年の通常県会で「鉄道敷設認可を仰ぐ建議案」を提出して可決され、旭に鉄道が通ることになったのです。明治31(1898)年には衆議院議員に当選し、国会議員を6年間務めました。明治38(1905)年には地元嚶鳴村長に就任しました。在任中、琴田尋常小学校と大間手小学校後草分校(統合前に嚶鳴西・東小と名称変更)の統合を苦心の末に成し遂げ、嚶鳴小学校が誕生しました。

昭和8(1933)年に亡くなりました。



鈴木儀左衛門の石碑